

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の
位置付け計画の推進に向け
た考え方

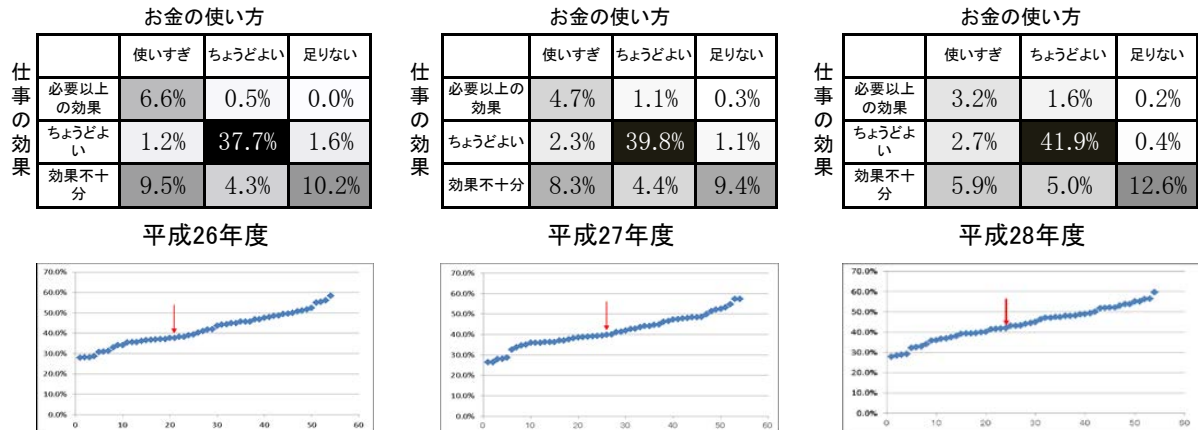
歴史的遺産と共生するまちづくり

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	22.0%	平成27年度	21.2%	平成28年度	21.1%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

＜妥当性の分析＞

平成28年度については、お金の使い方、仕事の効果ともに、「ちょうどよい」と回答した割合が多く、4割を超えている。

傾向としては、お金の使い方、仕事の効果ともに、「ちょうどよい」が3年間通じて最も多く、さらに増加傾向となっている。

また、3年間を通じて、仕事の効果が「不十分」と回答している人の中では、お金の使い方が「足りない」と回答している人が最も多くなっており、もっとお金をかけて効果を出すべきと考える人も1割程度いることが分かる。

お金の使い方に対し、「使いすぎ」と答えた人は平成26年度以降減少しており、「ちょうどよい」と答えた人は微増している。

今後、さらに、仕事の効果を向上させるため、事業の着実な推進を図る必要がある。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	20.6%	40.0%	13.5%	25.9%	100.0%
平成27年度	19.6%	38.2%	15.0%	27.2%	100.0%
平成26年度	17.5%	36.5%	17.6%	28.4%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①比較研究事業や普及啓発事業などの神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、「鎌倉」の価値の再認識及び再発見に取り組むとともに、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図る。(歴史-01)
- ②鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の着実な実施に取り組むとともに、来年度以降の事業見通しを明確にしていく。(歴史-02)
- ③平成28年度の日本遺産に認定されたことを受け、関係団体と協議会を設立し、「歴史的遺産と共生するまちづくり」の一環として、日本遺産魅力発信推進事業の推進に努める。(歴史-04)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
歴史-01	世界遺産条約登録事業	6,678	8,463	33,467	35,507	3.5	3.5	b	B
歴史-02	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業	4,364	161	19,672	4,024	2.0	0.5	b	B
歴史-04	日本遺産事業		43		43	0.0	0.0	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、比較研究等の再推薦・登録に向けた次の取組を実施した。(歴史-01)
- ・比較研究事業の実施(国内外比較研究現地調査、海外有識者視察)
 - ・「鎌倉」文化遺産比較研究委員会開催、国内有識者意見聴取
 - ・連続講座の実施(2回)
 - ・講演会の実施(1回)
 - ・ホームページにおける連続講座等の結果概要、記録を公開した。
- ②自治・町内会、市民団体等に対して、市の取組状況及び比較研究の結果について、出前講座を実施した。(歴史-01)
- ③鎌倉市歴史的風致維持向上計画に搭載した構成事業について、平成28年度の進行管理・評価を実施するとともに、進行管理・評価に対して、歴史的風致維持向上計画協議会の委員から意見を聴取した。(歴史-02)
- ④「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」第12条の規定に基づき、「御成小学校旧講堂」を歴史的風致形成建造物に指定した。(歴史-02)
- ⑤鎌倉の日本遺産ストーリーが文化庁から認定された後、日本遺産いざ鎌倉協議会(事務局:歴史まちづくり推進担当)を設立し、日本遺産の魅力発信推進事業を実施する体制を整えた。また、庁内プロジェクトチームを設置し、庁内連携・協力の下、次の事業に取り組んだ。(歴史-04)
- ・ブックレットの作成
 - ・雑誌掲載及びリーフレットの作成
 - ・映像の放映及び制作
 - ・外国語ガイドを育成するための講習会及び実地研修
 - ・「日本遺産いざ鎌倉フォーラム」の実施

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の実施の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・神奈川県、横浜市、逗子市と連携し、世界遺産の再推薦・登録に向け、比較研究や周知啓発の取組を着実に進めた。
- ・歴史的風致の維持及び向上のため、計画に搭載した構成事業を推進するとともに、歴史的風致形成建造物の指定を行った。
- ・日本遺産に認定された後、事業の実施体制を整えるため、日本遺産いざ鎌倉協議会の設立を行い、また庁内プロジェクトチームを設置して、日本遺産魅力発信推進事業の取組を着実に進めた。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」を実現するためには、歴史まちづくり推進担当が所管する4事業だけではなく、市の施策全体に「歴史的遺産と共生するまちづくり」の考え方を反映させていく必要があり、持続可能なまちづくりに向けて他事業と緊密に連携し、さらに連携強化のための策を講ずる必要がある。

また、認知度と仕事の効果を向上させるため、事業の着実な推進と、様々な媒体を活用して、個別事業の事業内容や意義について情報発信を行っていきたい。

4 平成29年度の目標

- 歴史的遺産と共生するまちの実現に向けて、鎌倉の魅力や価値を発信する取組や、鎌倉の歴史的遺産を後世に伝えるための事業として次の事業を主体に取り組む。
- ①世界遺産登録については、神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、平成26～28年度の3年間実施してきた比較研究の成果を踏まえ、関係機関との協働により、世界遺産登録に結びつくコンセプトの再構築を進めるとともに、取組状況について、様々な媒体を活用し、広く、市民等に発信し、登録に向けた機運の醸成を図る。
- ②鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の着実な実施に取り組むとともに、歴史的風致形成建造物の指定を進めていく。
- ③鎌倉の魅力や価値をより深く理解してもらうため、日本遺産いざ鎌倉協議会、関連部局、関連施設との連携を図りながら、日本遺産事業に取り組み、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進する。

※関連事業:

鎌倉歴史文化交流館については、平成29年5月の開館を目指して準備を進め、周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、市の直営施設として運営・維持管理を行う。また、広報、SNS等において、積極的に施設のPRを行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	歴史-01	事業名	世界遺産条約登録事業									
指標の内容	新たなコンセプトの確立に資する比較研究成果の獲得						単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要なステップとなるため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	30.0	60.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	30.0	60.0	100.0								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	歴史-02	事業名	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業									
指標の内容	歴史的風致形成建造物の指定						単位	件	指標の傾向	—	備考	
当該指標を設定した理由 歴史的風致形成建造物を指定することで、歴史的風致の維持向上に資するため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値			1.0	1.0	1.0	1.0					
	実績値			1.0								
	達成率			100.0%								
整理番号	歴史-04	事業名	日本遺産事業									
指標の内容	市民意識調査「鎌倉に住み続けたいかどうか」(市民の市への愛着度)の回答率						単位	%	指標の傾向	—	備考	
当該指標を設定した理由 当該事業の実施により、市民が本市に住み続けたいと感じてもらったため。また、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成28年 日本遺産決定				
	目標値			100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値			86.5								
	達成率			86.5%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

『市の施策全体に「歴史的遺産と共生するまちづくり」の考え方を反映させていく必要がある』という考えには大いに賛同できるが、その考えに基づく事業が世界遺産条約登録に尽きるのでは問題である。

・今後の方向性として「事業の成果などについて市民周知を図る必要がある。」としているが、事業の成果が何であるのかが分からない。

・「歴史的遺産と共生するまちづくり」に対して、何をどうするためにどんな事業を行い、その結果どのような効果や改善が図られたのかが分からない。

指摘への対応、コメント等

歴史的遺産と共生するまちづくりを推進する事業としては、鎌倉の魅力や価値の共有、「住み続けたい、住んでみたい、訪れたい」まちづくりに向けて、世界遺産登録のみならず、歴史的風致維持向上計画の推進、歴史文化交流館の整備、日本遺産事業を緊密に連携させながら取り組んでいる。

4事業の成果として、世界遺産登録の取組の比較研究結果から考えられる新たなコンセプトの方向性や普及啓発事業による再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成や、鎌倉歴史文化交流館の整備、日本遺産事業によるブックレット・リーフレットの作成や映像制作などがある。

歴史的遺産と共生するまちづくりを推進する事業としては、鎌倉の魅力や価値の共有、「住み続けたい、住んでみたい、訪れたい」まちづくりに向けて、世界遺産登録のみならず、歴史的風致維持向上計画の推進、鎌倉歴史文化交流館の整備、日本遺産事業を緊密に連携させながら取り組み、鎌倉の文化財の価値や魅力をこれまで以上に周知することができ、また、鎌倉の歴史的風致の維持及び向上を図ることができた。

提言

・世界遺産に登録されることで歴史的遺産を守るのではなく、市民自治と連携を図り、市民意識、理解の醸成にそれらを育てる方が先である。市民が鎌倉の素晴らしさを認識するような事業を展開すべきである。

・世界遺産登録をめざすことは構わないが、それを目的にするのではなく、鎌倉らしい歴史的遺産との共生を明示し、それに向けた施策展開を図っていただきたい。

・世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究による成果を得ることが、新たなコンセプトの確立に求められる。

提言に関するコメント等(総論)

歴史的遺産と共生するまちづくりの考え方に基づき、事業のツールとして、世界遺産登録、歴史的風致維持向上計画の推進、鎌倉歴史文化交流館の整備、日本遺産事業の4事業を緊密に連携させながら取り組んでおり、各事業を通じて、鎌倉の文化財の価値や魅力を発信するとともに、鎌倉の歴史的遺産を確実に後世に伝えていく必要があると考えている。

そのためには、歴史まちづくり推進担当だけではなく、関係部局や社寺関係者、関連団体、関連施設と連携をより強固なものとして取組を進めていきたい。

・研究などは、世界遺産登録とは切り離しても進めるべき大切な取組である。 ・鎌倉の古都としての歴史と、近代的な都市形成とがマッチングしている点を高く評価し、世界に情報発信していくべきである。 ・方針が「歴史的遺産と共生するまちづくり」ということで、様々な分野と一体になって進められていくことを期待している。 ・自然・歴史的遺産を保持しつつ新しい歴史・文化が創造されるまちであってほしい。 ・指標について、長期に亘ってその効果が明確に確認できるものを設定すべきである。	
--	--

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・神奈川県、横浜市、逗子市と連携し、世界遺産の再推薦登録に向け、取り組んだ。
- ・比較研究事業や普及啓発事業などの神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図る努力をしている。
- ・鎌倉市歴史的風致維持向上計画を策定し、推進を行っている。
- ・歴史的風致の維持及び向上のため、計画に搭載した構成事業を推進するとともに、歴史的風致形成建造物の指定を行った。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→		→
効果	○	1	△	1	—		—

《課題》

- ・将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」とは具体的にどのような街なのか想像が出来ないため、各事業の必要性・重要性が理解できない。
- ・世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要とされるが、進捗はどのような状況かが分からない。
- ・比較研究事業や普及啓発事業など行っているとのことだが、市民に還元されるまでに至っていない印象である。
- ・鎌倉歴史文化交流館の機能を工夫しながら活かしていくことが望ましい。
- ・鎌倉歴史文化交流館においては、鎌倉を訪れる小中高生が鎌倉の歴史・文化を学べるよう、展示内容を工夫してほしい。また、鎌倉市の文化や伝統を学ぶ教育機能として、工夫発展を期待する。
- ・風致維持、歴史的風土の保存のために、土地所有者や寺社、行為者等の風致地区条例及び古都保存法の手続、規制等に関する理解は市民にとって十分といえるだろうか。
- ・平成28年度の日本遺産に認定、その後の日本遺産魅力発信推進事業の推進はどのような効果を及ぼしているかが良く分からない。
- ・一昨年度の評価委員会からの指摘に対して「鎌倉の文化財の価値や魅力をこれまで以上に周知することができ、また、鎌倉の歴史的風致の維持及び向上を図ることができた。」と回答があるが、具体的に何が「向上」したのか。

《提言》

- ・「歴史的遺産と共生するまちづくり」がマンネリ化しているような気がする。新しい視点をもって、この分野の取り組みを実施していく必要がある。
- ・世界遺産登録ありきで施策が進められているように感じる。あくまでも、目標とすべきまちの姿の延長上に、世界遺産登録という目標があるべき。そのためには啓発ばかりではなく、市民自身に行動を促すべではないか。
- ・世界遺産があるから、まちづくりのレベルも歴史、自然環境との調和をめざす、過度の観光客や交通渋滞の回避など、世界レベルにしていこうという機運醸成をしてはどうか。
- ・講座参加者から聴講前、聴講後にアンケートを実施し、意識の変化の確認をするとともに、世界遺産登録へのニーズを確認すべき。
- ・世界遺産登録事業が観光と結びついて進行するイメージが強いため、市民が後ろ向きになっていると考えられる。だとすれば、そうではなく市民生活に結びつく側面をアピールしながら、もっと市民を巻き込んだ取組になる工夫があれば、市民主体の世界遺産登録事業になり、世界遺産登録による「鎌倉に住んで良かった」と思う人口が増えるのではないか。
- ・歴史的遺産、共生するまちづくりとは世界遺産、日本遺産のまちになることか、市民アンケートをとってほしい。
- ・日本遺産に認定された事を知っている市民はまだまだ少数であり、更に認定されると何がどう変わるのかを知っている市民は少数である。世界遺産認定についても重要であるが、まずは日本遺産についてもっと周知して理解を得、その上で世界遺産登録のメリットを説明すべき。